磐城日日

發行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集兼發行人 長瀬芳郎

印刷ノ御用命ハ
長瀬印刷所ヘ
事務用印刷物
廣告・チラシ

『カツオ』漁の切上げ續出
サンマ準備も急ぐ
縣水産事務所漁況を發表

縣水産事務所では八月中旬に於ける漁況に就いて次のように發表した

現在のカツオ漁は依然として振わず、某船が東經一五四度四八分北緯三九度二〇分水温二二度五分の水域で鮫付群を發見して一萬貫程の漁獲をした外は大したことはなく、各港の入港船も平均一隻二千貫程度であり、他の漁に切替える船も増加してきた

漁場は金華山沖東の線上で各漁場とも鮫付群が主であり餌付は殆ど見られない、然し乍ら今後の颱風通過や寒流勢力の急激な増加等に依つて起る水塊擾乱等の刺激をうけ餌付が一時的良くなりカツオ漁が回復することも考えられる、鹽屋崎から請戸に至る近海では引續き旋網船によるカツオ、キハダ、メバチ等の漁が引續き行われている

絞里沖の「クロマグロ」漁はその後衰退し、釧路近海では引續きサンマが好漁の模様であり、縣下でも五百隻がサンマ出漁のため準備を急いでいる

尚縣水産試驗場の調べに依ると今月中旬の縣鰹鮪漁業協同組合関係の江名港に於ける水揚漁種及漁獲高は次の通り（單位貫）

▽かつお＝八、七二四
▽ばち＝七三一
▽万引（しいら）＝八三四
計 一〇 五〇〇

テンマ曳場改修
陳情に代表近く出縣

小名浜町製氷冷凍冷藏工場促進委員会（委員長立花秀吉氏）では小名浜港築町地内にある全長二十五米のテンマ船引揚場は護岸よりはるかに低くなつており徒来時化のある度に波があがり江名鐵道の線路を洗掘し道路を越して人家にまで侵水する有様であり、また漁船も次第に大型化した今日、小型船の船曳場としての利用度も少なく現在不必要化しておる点より、予算六十萬円をもつて護岸と同じ高さに改修することになり、近く代表者を決定して縣に陳情することになつた

平二小校で体育主任會

縣教育委員会石城出張所では明二十八日午前九時より平第二小学校講堂に於いて小中学校体育主任會を開き、運動会の運営ラジオ体操、縣民体操などの実技練習を行うなお当日は健康章実施要領の傳達も行われる、また会終了後石城、平地区体育研究會の打合会を開く

敷地買收の委員會開く

小名浜町經濟委員会では全町古港の六号線道路擴張工事について敷地買收を行うことになつているが去る二十一日午前十時より小名浜町公民館日本間に委員會を開き関係者丹清治、小野傳壽、水野秀夫、若松捨吉、小野喜一、佐川爲四郎の諸氏を招じ買收についての交渉を行つた

泉の「ヒバリ」會
休暇中の行事終る

泉村ひばり子供会では学校の夏季休暇を利用して子供達の文化の昂揚と健康増進のため次のような行事を行い各家庭より感謝されている

▽七月二十一日＝小名濱港まつりに際し全会員にて小名浜地區署を慰問、海水浴場にて防犯宣傳を行つた

次いで午後は小名浜海上保安部を慰問、保安部の好意により巡視船にて小名浜港の内外を見学した

▽七月二十七日＝早起会は毎週二回行い午前五時に集合することになつており当日はボート乘り紅白試合を行つた

▽八月六日＝平市の福島地裁平支部及び平放送局の見学

▽八月十二日＝体育指導の目的にて磯原町天妃山山海館にて海水浴（旅費は会費より負担）

▽八月十六日＝お盆につき神笑より下川の道路全部を清掃して部落民より感謝されている

▽八月十七日＝男子会員が二泊三日の豫定で新舞子にてキャンプを行つた

平各小中校で作品展

平市内の各小中学校では夏季休暇中の児童生徒の作品展覽會を次の日程で行つている

第一小學校…二十六日より三日間、第二…二十七日、第三…二十九、三十日、第四…二十二日より四日間、第五…二十九日

第六…二十六日

第一中学校…二十九日、第二…二十六、二十七日

第三…二十九日

植田錦中で學習發表會

錦町中學校では二十一日午後一時より職員会を開き、夏季休暇の反省休育祭の日程などに付いて協議し、二十五日生徒の学習發表会を父兄参觀日を兼ねて盛大に開いた、尚体育祭は九月二十一日行う、また植田中学校でも去る二十五、二十六の兩日夏休中に實施した学習の發表会を開催

當日は多數父兄の参觀があり学校側でもよろこんでいた

錦青年會で時局講習會

錦町青年会では明二十八日午後七時より錦小學校講堂に於いて時局講演会を開く

当日は法政大学教授青木宗也氏の「憲法改正をめぐる問題について」の講演がある

植田で驛傳競爭行う

植田――石川間の國鐵バス開通式は明二十八日植田小学校講堂に於いて關係町村共催により盛大に行われることは既報の通りであるが、植田、山田田人、上遠野、入遠野、宮本、竹貫、中谷、石川の各町村青年会共催のもとに駅傳競走を二十八日の開通祝賀式當日開催することになつた

参加は前記の各町村青年

小名濱消防團の變遷 ②

当町に於ても明治二十七年六月消防令發布と共に新規の組織に改められ米野組、中島組、中町組、西町組と稱し獨立した活動をもつて互いに對抗し能く喧嘩さえ敢えて交じえたという制度から俄然新制度に改変したのであるから、相当の至難があり我が町消防の革命といふべきであったろう

そして小名濱消防組と改稱され明治二十七年六月初代組頭に当時劍道の達人としての若松誠三郎氏が推薦され、組頭代理に立花孝之亟氏がおされ第一部（米野、古港組）第二部（中島組）第三部（中町組）第四部（西町組）と改められ各部に部長、小頭、伍長、の幹部と消防手をおく様になつた、これがそも〳〵組織だつた小名浜町消防の嚆矢とするものであろう

次に累代組頭、組頭代理の年代表を記す（下は組頭代理）

初代 若松誠三郎、立花孝之亟（明治二七、六＝三四、四）

二代 立花孝之亟、加藤義一郎（〃三四、四＝三九、五）

三代 野崎猪太郎、菅原彌作（〃三九、五＝四三、二）

四代 高木安吉、小野鐵之助（〃四一、一二＝五、二）

五代 鈴木榮、小野普平（〃四三、二＝四四、五）

六代 小島源七、若松兼二郎（〃四四、五＝大正三、六）

七代 飯塚榮一郎、立花典次郎（大正三、六＝七、三）

八代 志賀義次、立花典次郎（〃七、三＝一一、三）

九代 小野普平、立花典次郎（〃一一、二＝一五、二）

十代 小濱長太郎

十一代 松本德次郎

小野三郎、松原正美（昭和七、一二＝一四、四）

昭和元年十代目組頭小浜氏乘用車型（フォード）自動車ポンプ購入と同時に各部の外に本部消防部を増設し、當時組頭代理たる熱の人草野新兵ェ氏が初代係長を兼務しその指揮のもとに消防組直屬の機動的消防活動隊が出現した、これが現在の消防署の前身ともいえよう

昭和十二年一月に至り十一代目組頭松本氏大型（ダッチブラザース）ポンプを購入して上明神町三番地に（現在の消防署）消防組本部及び車庫を建築した、昭和十四年十一代目松本組頭を最後に歴史ある小名浜消防組も當時の國情から、組織、名稱が改められ対内的より対外的な防空、消防活動に變つた、そして名も消防團となり各部が各分團となり本部消防部が特設消防部と改められた

長瀬 要
草野新兵ェ（〃一五、二＝昭和七、一二）

天氣豫報 27

【本日】南東の風始めは良い天氣ですが後時々雲が擴がり所によつては夕立がありましょう

【海上】日中は南寄りの風で風波が出ます

記者見習 業務員若干名募集
希望者本社來談
新制高校以上、年令、不問履歷書持參
小名浜町渚廻五一
磐城日日新聞社
電話三八七番

郷土の新聞 磐城日日

定指險保災労
外内性放 科科科病射線科
石井醫院
小名浜町本町6） 電話472番

秋・冬服地入荷
純毛服地專門店
良い生地で良い仕立、そして出来るだけ安く
これが當店のモットーです
皆様のチケットを御利用下さい
大井洋服店
小名濱町本町通り

経費をかけずに良い品安く
專門店会チケット御利用下さい
御子様へ御菓子
動物ヨーチエン 百匁60円
ビスケット 百匁50円
學生さんへ
上質ノート 16枚 5円より
上質大學ノート 15円より
野球帽 55円より 110円
赤タスキ赤白帽 15円より
御嬢さん奥様へ
夜具地 反 270円より
白生地ヤール 55円より
化粧品柳屋メヌマ ジユジユ ビリオ 80円
花王洗濯石鹸德用型 10円
御動の皆様へ
ネクタイYシャツ特別奉仕
皮底サンダル 460円より
男女雨靴 650円より各種
小名浜第二小學校前
皆様の店 平マーケット
電話297番

女子社員（數名）急募
一、高女卒以上の學歷の有する方廿五才迄
一、事務經驗の多少ある明朗な方
一、市内在住者又通勤可能な方
●履歷書持參の上面談の上特に優遇す
時～十二時迄
平市新川町二九
三井信託金庫
平營業所
電話三八番

●電話新設御知らせ●
此の度左記の通り電話を新設致しました
電話（小名浜局）六六六番
多少に拘ず御用命下さい
敏速に配達致します
小林豆腐店
小名浜町古港五二

此の度電話を新設致しましたから御利用下さい
電話（小名浜局）六七四番
洗張染色はドライクリーニング師
免許證授與者へ
外交員急募 委細面談
小名濱ドライクリーニング所
小名浜町本町

パーマと美顔は……
小名浜町 本田美容室へ

蟲蟲蟲下し
徹底驅除しよう マルキの相互虫下しを
是非お奬め致します
マルキ藥房
小名浜町西町 電一一五

多肥田、二毛作田、晩植田 穂穂穂首「イモチ」の防除

縣農事試驗場で警告

縣農事試驗場ではこのほど穂首「イモチ」病の發生を警告して次のように農家に呼びかけている

●今年は六、七月の多雨と日照りの少いため平たん部に於いてさえも稻の発育に軟弱成長で、葉「イモチ」の發生はむしろ平たん地型であつたがその後の高温と照りにより稻も相當に成育を取りもどしている、また最近の夕立性の降雨のため灌漑水も豊富となつたので一般には穂首「イモチ」の危險は去つたように考えられるが、葉「イモチ」発生地では現在なお胞子がとられ、多肥田、二毛作田、晩植田などでは新らしい病班も認められるので穂首「イモチ」の防除につとめられたい

▽ 穂首「イモチ」病防除を必要とする田は平たん地の多肥田及二毛作跡

▽ 防除法＝八斗式過石灰ボルドー液、銅製劑液（水一斗に十二匁）を反當り一石を撒布するか、セレサン消石灰（セレサン五百瓦、消石灰二千五百瓦）反当り三—四キロを穂前期に撒布する、また灌漑水は十分に確保すること

磐崎に防犯協會

會長は瀧 義勝氏

磐崎村防犯協會結成準備委員會（委員長瀧義勝氏）では去る七月より村役場並に湯本地区署の協力を得て会則の制定、會運営などについて研究中であつたがいよいよ發足することになり二十三日午前九時より磐崎中学校裁縫室に大田原村長、菅家湯本地區磐長臨席、村内各種團体長及び役員四十余名参集して創立總会を開き会則等を協議次いで役員の選任を行つた結果次の通り決定をみた

会長＝瀧義勝、副会長＝鈴木虎雄、御代千代三、顧問＝磐崎村長大田原憲太郎、湯本地區署長菅家德治

鮫川の伝説 ③

錦町 蛭田仙吉

老公はこれをお聞き遊ばして「オヤオヤ！変なおやじと坊主の三人連れには驚いた」連れの兩名も顔を見合せて笑つている、船は戻されて棧橋につくと待ちかまえて居た御用飛脚「コレ船頭、我々は奥州仙台伊達家お抱えの御用飛脚だ、勿体なくもこの御狀箱の中には、御老中の御判物を所持しているによつて、他の町人共とは斷じて同船は相成らん、一同船から上がられい」これには船頭も困つてしまい、頼むやうにして一同を船から上つて貰つた

前々からこの有様をみておられた西山公は「助さんや、お上の御用とかを笠に着て恐ろしく威張るものだのう、何を持つているのか知らんが同乘はまかりならぬと追拂うとは余りにも亂暴な仕打、一つ懲らしてやろうではないか、助さん、宗匠さんも頑張つて下さい」

と打合せ三人はじつと船の中に殘つていた、船頭が何んといつても下船しない

「一船まてば遅くなる、遅くなるのは嫌だ」「そりや誰だつて同じですが」

「ハハ何ぢやな」「何んぢやなとは何んと無禮千万、汝はわれらを何んよんどころありませんで」「何がよんどころないのか同船してならんのならあの二人の奴にあとまで待つてといひなさい」

「エッ二人の奴……」

これを聞いたから、二人の御用飛脚、カン〜に怒り、おのれ怪しからん奴だ退けッといふとヅカ〜船の中へ入つて来て「コレ〜おやじ」

「ハハ何ぢやな」「何んと無禮をいたすと許るさんぞ」「ハア許さんといふとどうなるのかな」

「おのれ何を吐かす」枝川平四郎怒りの餘り、鐵けんを固めて老公の横ッ面を打たうとした、お傍にいた助三郎「アッ何と心得る」「サア形だけは矢張り人間の部かな」「何と汝我等をさよういたすが、否じけなくも、御老中の御判物を持参の仙台飛脚、枝川平四郎、森山半兵ェの兩人に無禮をいたすと許るさんぞ」「ハア許さんといふとどうなるのかな」

「おのれ何を吐かす」枝川平四郎怒りの餘り、鐵けんを固めて老公の横ッ面を打たうとした、お傍にいた助三郎「アッ何をするッ」というと思うう間に平四郎を川の中へザブーン、ウアッ投げた〜と棧橋にいた連中手を叩いて大喜び、森山半兵ェカッとなつて一刀の柄に手をかけ、「無禮者をッ」抜きかけたところを松雪庵それを輕々と腰車にかけ一振したから半兵ェは横飛びにとんでドブーン、サット水煙が上ります、投げられた二人は流れて行く

六万圓也の大「マグロ」

二十五日小名浜町丸高漁業部の大敷に五十二貫の本まぐろが入り夕刻市場に水揚され六万円で丸二鮮魚店に買取られたが、こんな大きなのは近ごろ珍らしい

平に赤痢續發

盲ろう學校には集團

平市縣立平盲ろう学校寄宿舎光寮内江尻一彦（九）ちゃんは二十四日赤痢と決定、そのため平保健所では寮内全生徒の検便を行つたところ橘千枝子（一一）さんら四名の保菌者を發見直ちに隔離した

また全市上神谷農鈴木良雄さん長男義夫（一八）君ら兄弟三人、全上荒川運轉手大河原重雄さん長男一元（一八）君兄弟二人、全字澤田千代（四八）さん、齋藤みちよ（二七）さん草野定造（四）ちゃん、全市堤ノ内松島和雄（四）ちゃんら計九名が赤痢と決定した

日鑛の委員會

日鑛常連第三回常任委員会は来る二十九日午前十時半より平市労働会館に於いて次の議案について協議する

▽ 第三回中央委員會決定の件

▽ 地方労働委員推薦の件

▽ 縣地労協結成大會の件

轉落船員のそう査願

小名濱に廻船中の揚繰船第二明神丸（二六屯）＝岩手縣氣仙町＝は二十三日午前七時三十分ごろ操業のため小名浜を出港したが江名町沖十八マイル附近にて時化にあい荒天作業中全船乗組員中野勇（四二）さんはあやまつて海中に轉落行方不明となつたため中野周一（三八）さんより小名浜海上保安部に對して二十五日捜索願があつた、全部では直ちに捜索を開始した

鐵道自殺男の身許判明

八月二十一日午前七時二十五分頃平市松ケ岡公園裏常磐線上り三二二〇貨物列車に飛込み自殺を遂げた五十才位の男について、二十四日午前十時頃好間村上好間炭礦白土キク（五一）さんが平市役所に出頭して身柄を引取つた、自殺者はキンさんの夫無職白土末松（五三）さんで平市上高久字杉木前七に別居生活をしているが二十日夜キクさん宅を訪れ口論をして家を出たもので夫婦間に二人の子供があるも何にか復雑な事情があり別居していたものらしい

密漁船に繋船命令

小名濱海上保安部の斷

小名浜海上保安部では去る十九日水産廳の依頼により双葉郡久の濱港所屬第五不動丸（船主吉田捨吉氏）及び東誠丸（船主高木繁次氏）を中型機船底曳網漁業令違反の疑にて取調べを行つていたが二十三日兩船の海具、捲揚設備の撤去及び九月一日より十一月二十九日までの九十日間、中型機船底曳網漁業の停止、また全期間中久之濱港に繋船するなどの處分をとつたなお兩船は禁漁期間中にもかゝわらず底曳操業をしていたところ第二次取締にひつかつたもの

綴—平驛間で置引さる

二十五日午前五時四十分頃下り五一三列車にて綴〜平間に於て小名濱町西町松山キミ子（四〇）さんは一千二百九十圓在中の財布と外國人登錄證を入れて置いた風呂敷包を網棚より置引されたと平公安室に届出た

盗品賣込みの歸途御用

小名浜地区署では二十五日朝全町西町無職沼田某（一八）全町松の中一八三土工中野某（一九）の兩名を窃盗、全町松の中一八二古物商入井邦藏（六二）を贓物故買の現行犯で逮捕取調べているが、沼田、中野は二十五日午前〇時頃共謀して全町高山日本水素工場プール附近の動力送電用電線七本二貫目（五千円相當）を盗み入井に一千二百圓にて賣却しての歸途地區署員に逮捕されたもの

バッテリー盗まる

江名町中ノ作磐城貨物自動車KK江名營業所運轉手坂本久（二五）さんは二十五日白河市本町花助旅館前に駐車しておいたトラックより三十五ボルトバッテリー二個（十萬円相當）を盗まれ白河市署に届けた

小濱沖でテンマ船拾う

小名浜町古港九一漁業伊藤清次郎さんは去る二十一日全港舊市場事務所前岸壁にあげて置いたテンマ船一隻紛失したと小名浜海上保安部に届出たため捜査中のところ二十五日植田町柳葉鶴吉さんが小浜沖にて拾得した旨の連絡があつた

船より部品盗む（江名）

江名町大字江名字南町無職坂本清（二三）は二十一日夜十二時頃全町字向畑三二志賀寅藏（五二）さん所有の第八興洋丸より船舶機械の部品五千円相当を窃取した疑いにより二十二日小名浜地區署に逮捕されたが二十四日身柄送検となつた

内郷電線泥の身柄送検

内郷地區署では去る二十一日全町高坂字立野九四農三瓶久好（二一）、全字二二土工高坂竹與（二二）全字九採炭夫某（一八）の三名を窃盗容疑で逮捕取調べていたが、三瓶らは共謀して七月より八月上旬にかけて前後四回に亘り高坂字中平地内に架設してある東北電力所有の電灯線白八十米三千円相当を盗んだものであり二十五日身柄送検した

魚菜市況 26

【小名浜中央青果市場】

鶏卵一一〜一二、五〇茄子八〜一五甘藷四七〜九二人蔘六〇〜一〇〇葱四〇〜六〇里芋五五〜九〇玉菜一〇〇牛蒡三〇〜四五馬鈴薯三〇〜四五玉葱四五〜六五トマト三〇〜一〇〇牛姜一一〇〜一四五根生姜三五〇〜三六〇大根五〜三六丸大根五〜三六南瓜一〇〜二〇豆二〇〜六〇大和芋三二五

種各印刷の御注文は長瀬

内科 小兒科 會田醫院 院長 會田亮 小名浜町横町（電一四八）

【湯本の名物】 全國菓子協会長賞 福島縣觀光連盟推薦 湯の餅 三國の雪 創作研究品 佐はこ羊かん 常磐黒ダイヤ糖 湯本町 小松屋 電話三〇七番

新菓特許 アイス（チョコレート）ロール【壹ケ拾円】 本品は夏季趣好品として絶対口あたり良く お年寄の方にも召しあがれます 栄養百パーセント 製造販賣所 松田屋冷菓店 小名浜町中島 電四二 熊田屋菓子店 小名浜町西町 電五五四 まるた ん 小名浜町古港 電三三

賜 一等賞金盃 溫泉もなか 名譽大賞牌 湯本羊かん 賜 技術賞 溫泉まんじゅう 湯本名物菓子製造元 九頭見家本店 T二六五

古い歴史と信用本位 丈夫一式の定評ある 平形製傘工場 平市古鍛冶町二九